

## 第5回「論語三代」趣意書

社会福祉法人 福生会  
理事長 谷口 宗弘

安岡定子先生をお迎えし、ここ三朝町で開催する「論語三代」も今年で五回目を迎えます。第一回目から多くの方々にお世話になって現在に至ります事、改めてお礼申し上げます。この度の論語三代のキーワードは吉田松蔭先生の言葉、『志定まれば気盛んなり』としました。

松蔭先生が活躍した幕末と現代はよく似ていると思います。幕末は日本が西欧の植民地になるかどうかの瀬戸際。現代は日本が子孫に誇れる国であり続けるかどうかの瀬戸際。幕末も現代も、社会環境の激変は今までの安定していた生活を不安定にさせます。人はその不安定さから己の将来に見通しが立たず不安になります。その不安は人から人に伝染して社会全体が不安になり、悪循環して人心の乱れ、社会の乱れともなります。松蔭先生はそうした幕末に、「見通しが立たないなら志を立てなさい。そしてその実現に行動しなさい」と言われました。それが今回の『志定まれば気盛んなり』です。

今の大人は子供に「夢を持ちなさい」とは言っても「志を立てなさい」とは言いませんね、何故でしょう。こんなに大切な言葉にもかかわらず、です。夢はあくまで個人、「私」の願望であり、志は社会、「公」の幸福や安心を願う徳から発するもの。これが志は夢より尊い所以で、それは幼い子供の時代から徐々に培われるものです。決して一朝一夕に芽生えるものではありません。私たちの試みである論語三代がいつの日か彼らの心の中で芽吹きますように、と願ってやみません。

## 第5回福生会「論語三代」祝辞

三朝町長  
吉田秀光

昨年に引き続いて今年も、子ども向け論語教育の第一人者である安岡定子先生をお招きし「第5回論語三代」が開催されますことは、誠に喜ばしく、心からお祝いを申し上げます。

また、福生会におかれましては、賀茂保育園の指定管理者として、本町の子どもたちの健やかな成長に、多大なご尽力をいただいていることに深く感謝を申し上げます。

論語は、中国の大思想家「孔子」とその高弟の言行・思想を記録した書物であり、人生を豊かにする至極の言葉が多く記されています。そして、園児たちは、その言葉に触れることにより、人生の中で何が一番大切なのかを学び取るとともに、相手を思いやる心を確実に身に付けていると思います。

「論語の素読」は、賀茂保育園の大きな魅力として定着し、子どもたちの心の成長を促し、落ち着きを身に付けさせるために、大いに役立っていると実感しています。本町の子どもたちが心身ともに健やかに育ち、豊かな人間性を育てていくために今後も引き続き、この取組を進めていただきますようお願い申し上げます。

このたびの「論語三代」が成功し、子どもたちの生きる力の体得、育成につながりますことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。